

目指す学校像	すべての子どもたちの居場所となる学校 ～教職員、保護者、地域が連携・協力して子どもたちを支える学校～
--------	--

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善による個別最適化、そして探究化による資質・能力の育成 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制と学校行事の充実 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現 4 一人ひとりが力を発揮し、だれもが居心地の良い (Well-Being) 学校つくる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともにほぼ全国・県平均値を下回る結果となった。  ○国語・算数は「好きか」という設問に対し肯定的な回答が少ない。 ○国語、算数ともに無回答率が高い。 (課題) ○アンケートで学習に対して肯定的な回答をする児童は多いが、主体的な学びに係る回答は低めなことから、主体的に取り組むためのさらなる改善が課題である。 ○無回答率が高いことから根気強く問題に取り組む姿勢を身につけさせることが必要となる、また問題文の内容をよく理解する「読解力」が求められる。	・学びの自立化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善  ・学校課題研修の充実や高学年教科担任制の効果的な実施	①ICTを有効に活用し、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、指導の個別化、学びの個別化を行う。  ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、データの利活用等の中で、自ら学習状況を把握できるようにする。	①学校評価で該当項目に肯定的な回答を増やす。  ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て達成に向けて行動できるようになったか。				
			① 全国・市の学習状況調査の最新の結果を基に読解力に関する状況を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング訪問を受けることで、より効果的な手立てを設定し学校全体で児童の読解力向上を図る。 ②高学年教科担任制は、教務主任を中心に、時間割等を見直しPDCAサイクルによる評価・改善を図る。	①調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点や手立てを、ブロック別に設定する。また、読解力についてのポイントを向上させる。 ②教師の専門性を高める研修を充実させ、教科担任制についての成果と課題をまとめる。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問項目で肯定的な回答をした児童は、全国・県平均を上回った。 ○教職員による安全点検を実施して、危険箇所等は早期発見できている。 ○コロナ禍で行事や遊びに制限がかかり、体力テストの握力以外が全国・県平均を下回る結果となりケガの増加が見られる。(一人で転倒してしまう、転んだ時に手がつかない等) (課題) ○緊急度2以上に該当する児童が、複数いる状態であるため、積極的な生徒指導と、教育相談の早期対応が必要である。 ○体力低下によるケガの増加がみられるため、休み時間の外遊びの確保、体育活動時の運動量の確保、ケガ予防の児童の意識向上を図る必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた行内体制の充実  ・安全点検の組織的な対応と適切な予算執行	①生徒指導主任を中心に、月1回のいじめのアンケートや心と生活のアンケート等を行い、児童のサインに気づき、早期対応ができる体制づくりを行う。  ②できる行事を見直し、児童が体験的な活動を通して、自尊感情を高める。	①教職員は、組織的に報・連・相・見届けを実施することで、即日対応する。  ② 通常の教育活動に戻すがコロナ禍で得た工夫や改善を取り入れた行事を行っている。				
			①教職員による安全点検を組織的に実施するとともに、危険箇所や不具合があった場合、即時対応して適切に修繕、見直しをする。必要に応じて迅速に予算を執行していく。 ②養護教諭を中心に、校内におけるケガマップ等を作成し、児童自らケガ予防について考えられるようにする。	①適切な教育環境づくりを実施し、学校評価の安心・安全に係る質問について項目で肯定的な回答を向上させる。  ②ケガの件数が減少及び体力向上のポイントの向上。				
3	<現状> ○昨年度より学校運営協議会を年2回開催し、「栄和小の児童につけさせたい力」について熟議をした。 ○学校運営協議会とスクールサポートネットワークでの役割の確認とを確認した。 <課題> ○今年度は昨年度の熟議の中で共有した「つけさせたい力」を地域・家庭等にも広め具体的に実施できるとよい。 ○学校公開や参観等児童の様子を家庭や地域の方々に見ていただく機会を多く設けることが必要である。	・目指す児童像を地域・家庭に共有するための教育活動の積極的な公開  ・地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの推進	①学校運営協議会を年3回実施して、熟議を重ね、その具体策を表現に向けて計画実施する。 ②授業参観を家庭、地域に公開することで積極的な情報発信を行っていく。	①学校運営協議会の熟議で出た具体策について実現できたか。  ②学校評価で該当項目の質問について肯定的な回答を向上させる。				
			①防犯ボランティア、学習ボランティア等の方々への支援を活用し、日々の登下校の見守りや、授業での出前講座等を実施し、充実した教育活動ができるようにする。	①日々の活動から、児童が感謝の気持ちを表せるような機会を設ける。 ②さいたま市学習状況調査にて地域との関わりについての質問について肯定的な回答を向上させる。				
4	<現状> ○研修主任とエバンジェリストを中心に、ICTを活用した授業実践は全教職員が実践している。 ○学校課題研修で国語科、算数科の研究を通して教職員の資質向上を図ることができた。 ○ICTの活用については教職員が思っている以上に児童は評価が少ない <課題> ○ICTを有効に活用し、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、指導の資質向上が求められる。	・一人ひとりが力を発揮できるWell-Beingな環境づくり	①始業時間を早め、放課後の時間を確保する等の、適切な業務改善をすることで、教職員が本来すべき業務に時間が使えるようにする。 ③ 毎週木曜日に研修の時間を設け、教職員の資質向上となる研修を行い、研修内容に応じた指導者を招聘する。 ③ICT支援員の活用や、エバンジェリストを中心に、主体的に学べるICT活用事例について紹介する。データの利活用や、ICT活用で個別最適化された学びの実現を研修する。(年3回)	①授業準備等の時間が確保できるよう業務改善をはかり、教職員がゆとりをもつことができたか。 ④ 毎週木曜日の研修の時間を確保するとともに、国語・算数の指導者をそれぞれ招聘し、講演会や研究授業等を適切に実施したか。年2回 ③学校課題研修の中で、ICT活用事例について研修を深められたか。				